

# 第3回 ワイヤレス固定電話検討作業班

## 構成員からのご意見に対する考え等

2020年7月22日

日本電信電話株式会社  
東日本電信電話株式会社  
西日本電信電話株式会社

- ターミナルアダプタは事業用電気通信設備として、利用者が容易に触れられないようにする必要がある。また、0 A B ~ J 番号の位置固定要件を満足できるか懸念あり。
- 作業班において、ターミナルアダプタの移動検知を実施する旨の発言があったが、具体的にどのようにするのか。

## (NTTの考え)

- 事業用電気通信設備としての扱い
  - ・ ターミナルアダプタはお客様宅内に設置することから、お客様が触ることを抑止することは困難であるため、以下のような対応を検討中 ※ターミナルアダプタは当社フレッツ光サービスにおけるONUと同様の位置づけになることを想定(特定端末設備)

ONUと同じく、約款等に移動、取りはずし、変更し、分解し、若しくは損壊の禁止及び、その設備に線条その他の導体を連絡することを禁止する旨を明記することを検討中

- 位置固定要件への対応
  - ・ ターミナルアダプタが移動禁止である旨を約款等に記載、ユーザ周知も徹底することで、移動を抑止
  - ・ 更なる抑止策としてGNSSを活用した端末の位置情報取得により、移動検知する仕組みを実装予定
  - ・ 位置情報取得にあたってはお客様の環境を考慮し衛星信号受信用のリピータ等の準備も検討中

- モバイル網については基本VoLTEでの提供と考えるが、**実地測定（資料ワ作1-3）で3Gを測定している意図は何か。**

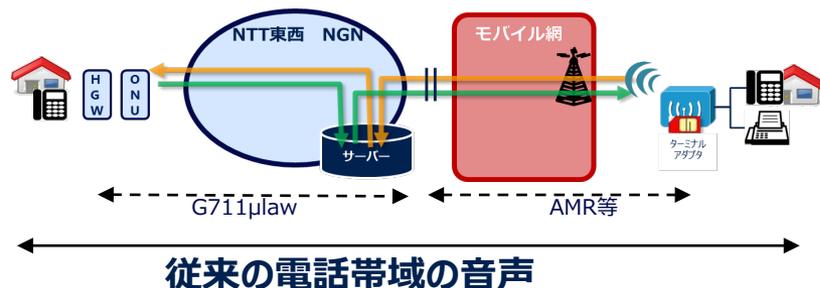
## (NTTの考え)

- ワイヤレス固定電話で用いる携帯電話網のサービスはVoLTEを想定している
- 資料ワ作1-3スライド5にて提示した、（参考）「異なるキャリアの携帯電話間での実地サンプル測定結果」では、広く普及している他電話サービスの水準の一例を示した
- ワイヤレス固定電話は従来の電話帯域のサービスとなることから、同じく電話帯域で通話が行われている3G同士や3Gと4Gとの通話測定結果を例示した

(参考) [資料ワ作1-3より抜粋]

「異なるキャリアの携帯電話間での実地サンプル測定結果 及び 最遠の推定値」

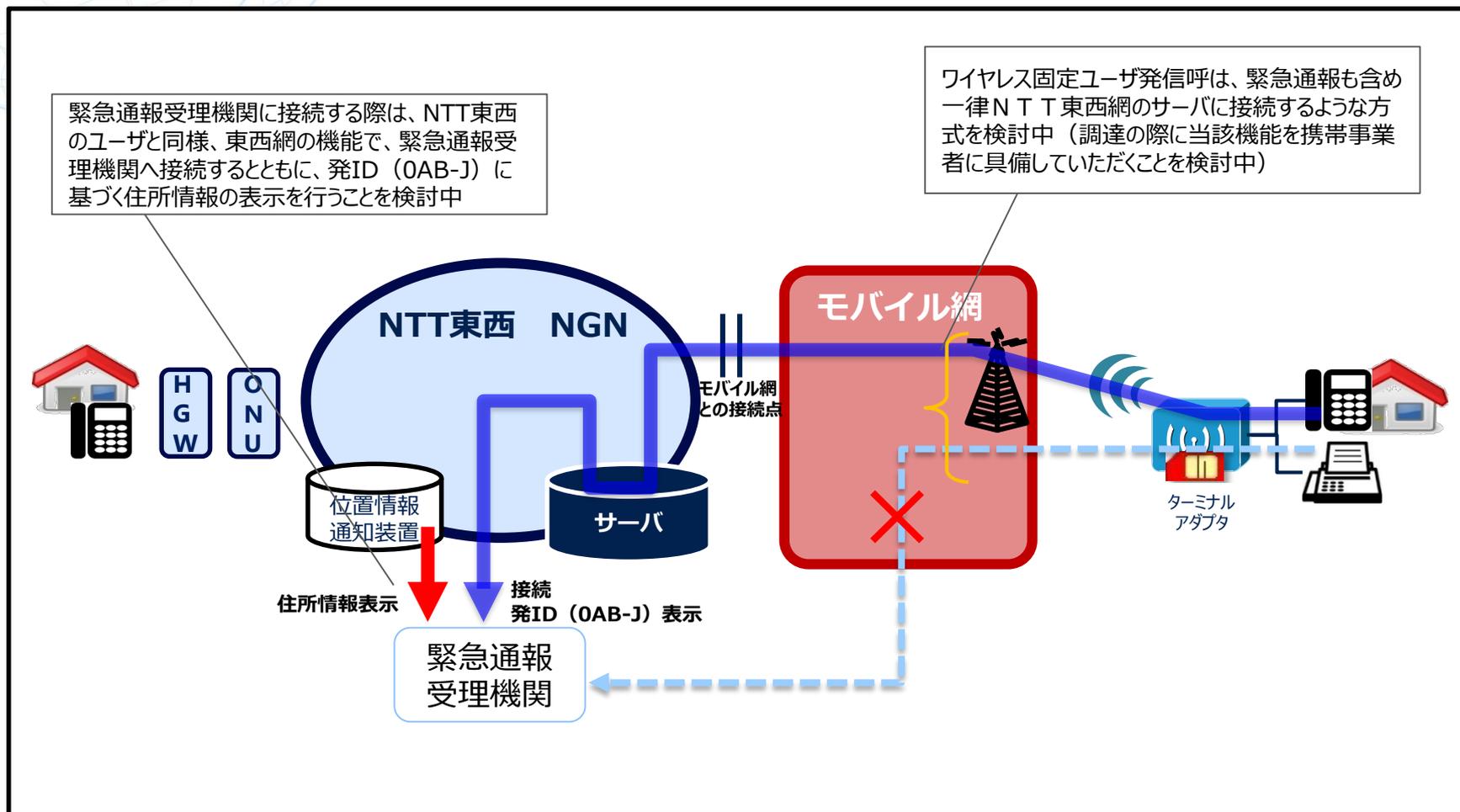
### 【検討中の提供方式のイメージ】



作業班限り

- 作業班にてモバイル網内は携帯電話番号を用いてルーティングをするとの発言があったところ。そのままでは、携帯電話として緊急機関に接続されると考えるが、0AB~Jとして、どのように接続を実現するのか

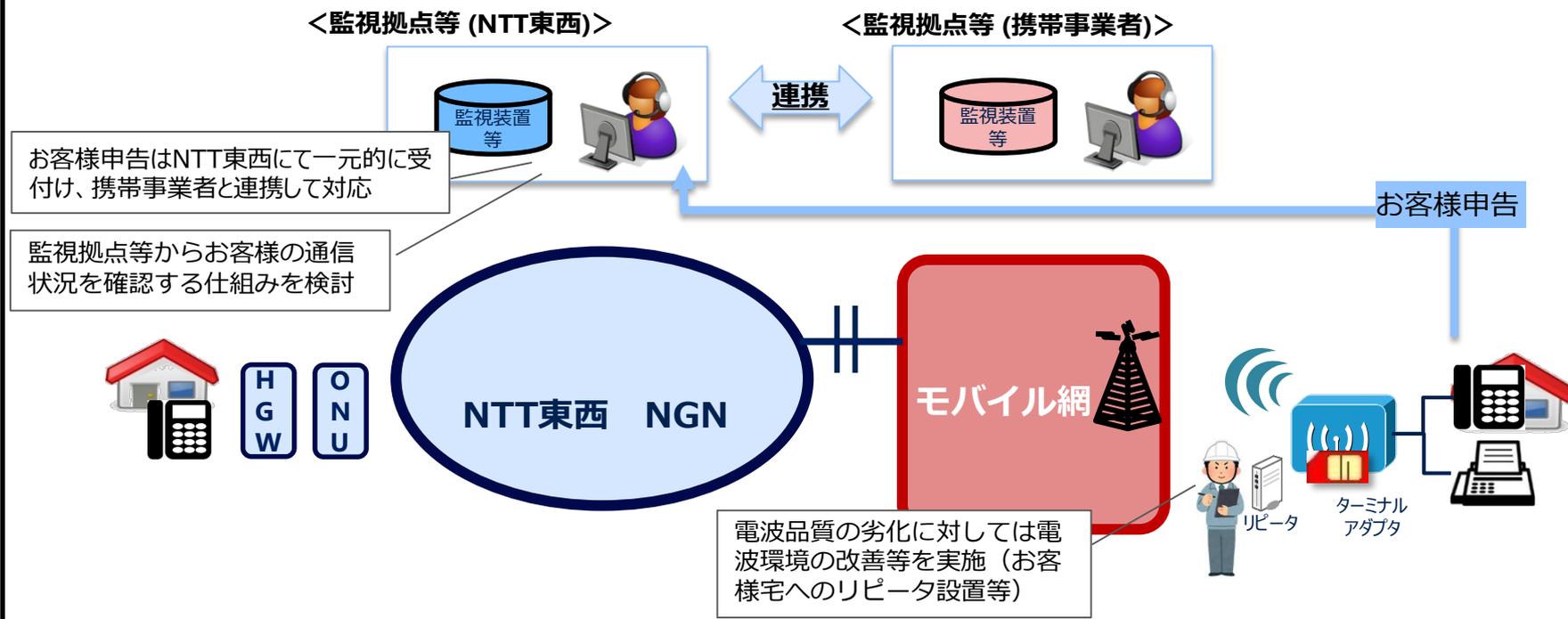
## (NTTの考え)



- 品質の低下時における対応はどのようにするのか
- 安全・信頼性を確保するための具体的な方策について、NTTの考え

## (NTTの考え)

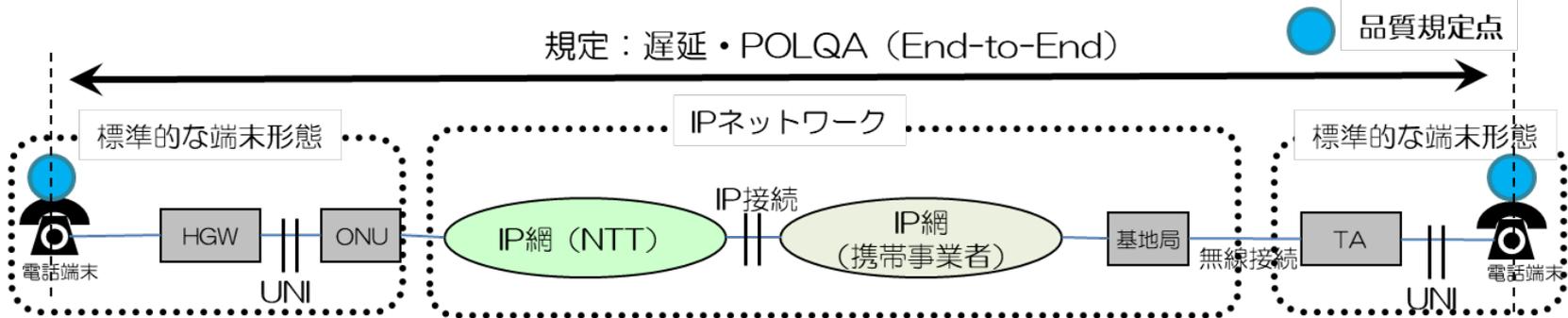
- サービス全体としての安全・信頼性確保（事前・事後の品質維持管理の方策等）
  - ・事前：回線毎に開通試験を実施し、正常に通話ができることを確認
  - ・事後：開通後は、ネットワーク全体をオペレーションシステム等で監視（お客様の電波状態を遠隔で把握する機能も検討中）
- 通信障害等の発生時における原因特定や機能維持・復旧の手法
  - ・ネットワーク全体の正常性確認を実施し、故障箇所特定・切り分け復旧等を実施
  - ・電波品質の劣化等に対しては、お客様申告等に基づきモバイル事業者と連携して電波品質の改善を実施
- モバイル事業者設備との責任分界の在り方
  - ・モバイル事業者設備については、モバイル事業者様と保守連携を行い、迅速に切り分け・故障対応を実施



# 品質規定モデルに対する考え (1/2)

- 実際にお客様が利用する音声の品質を評価
- 具体的にはEnd-to-Endにおける音声の、遅延・音質 (POLQA) を評価することを規定として提案したい
- 代表的な接続形態は、お客様数等から鑑みて、ワイヤレス固定電話とIP電話 (NTT東西) との接続である
- なお、その他の接続形態としては、ワイヤレス固定電話同士や他事業者が提供するIP電話との接続形態等も想定される

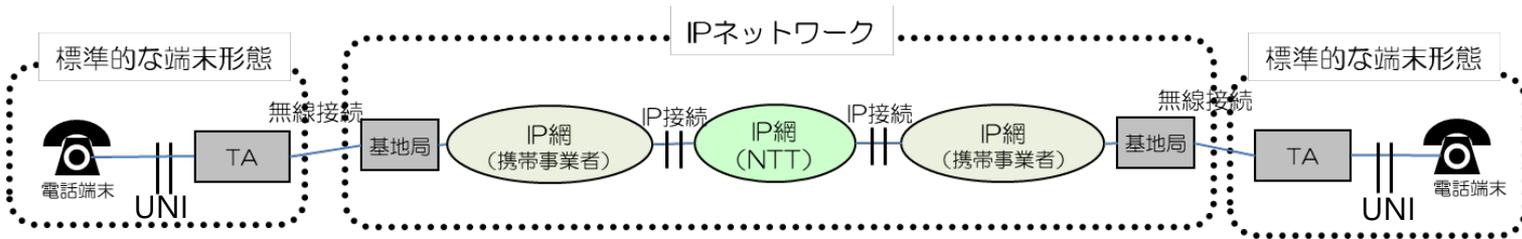
## 【代表的な接続形態】



# 品質規定モデルに対する考え (2/2)

## 【その他の接続形態】

○ ワイヤレス固定電話同士の通話



○ 他IP網 (OABJ) との通話

